

技術科と情報科における情報教育の連携  
—中高一貫教育校の教員の意識に着目して—

The Partnership between Information and Design and  
Technology on Information Education : Focusing on  
Consciousness of Teachers of combined Secondary Junior and  
Senior High Schools

学籍番号 : 201421570

氏名 : 縣 正樹

Masaki AGATA

知識基盤社会の到来に伴い、学校教育においては、主体的、実践的に社会生活を生き抜く知識・技能を持った生徒を育成することが求められており、中等教育における技術科と情報科の連携は有用な手段であるといえる。そのためには、両教科の連携に影響を与える要因を明らかにし、情報教育の接続性、系統性の改善を図ることは急務であるといえる。そこで本研究では、技術科と情報科における情報教育の連携に影響を与える要因を文献調査と授業を担当する教員に対する質問紙調査によって分析し、明らかにすることを目的とする。

質問紙調査では、文献調査の結果を踏まえ、2回に亘って情報教育を担当する教員の意識について調査を行った。1回目の調査では、全国の中高一貫教育校全校に対して勤務校の生徒の実態と両教科の現状について調査し、121校から回答を得ることができた。2回目の調査では、前回調査の回答校に対して教員の教科に対する肯定感情と被援助志向性、それぞれの教科に望むことについて調査し、19校から回答を得ることができた。集計結果は、学校と教員の属性に基づいて回答を分類し、4段階で点数化した後にクロス表に集計した。集計結果の分析は、両調査ともにクロス表からカイ2乗検定で有意差が認められた結果に対してt検定をおこない2属性間における有意差を確認した。

連携に影響を与える要因は、1回目の回答結果の分析から、臨時免許状で指導することや非正規雇用であること、情報科の免許のみを所持していることであることが明らかになった。2回目の回答結果の分析から、回答した教員は、教科に対する肯定感情が高く、被援助志向性が高いことや、情報機器やソフトウェアの利用法の指導に多くの時間が割かれていること、両教科の教員は相互交流を要望していることが明らかになった。

担当教員の意識に基づくこれらの調査結果から、技術科と情報科の連携に影響を与える要因は、非常勤講師や臨時免許状を多用することによる専門性の欠如した教員の増加、技術科および情報科への基本的な機器・ソフトウェア操作を含めた情報教育の一任、同一の学問背景がありながら、研修等で実践事例や指導技術の交流が行われてこなかったことの3点を技術科と情報科を担当する教員の意識の調査から考察した。

研究指導教員 : 平久江 祐司

副研究指導教員 : 鈴木 佳苗